

## IV 学校研究推進計画

### 1. 研究主題　　自分の力で学ぶ子の育成

#### 2. 主題設定の理由

小学校学習指導要領では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善が必要であるとされている。これから予測困難な時代に対応できる人材育成を目指しての授業改善が求められている。

昨年度、本校は「自分の力で学ぶ子の育成」を掲げ、研究を進めてきた。重点に掲げた単元デザインによる授業づくりや毎時間のふり返りに取り組んだ。また、年度途中から、児童に学びを委ねる時間（本校では「ロックタイム」と名付けた）を取り入れた授業づくりを行った。研究成果と課題を明らかにした結果、これらの取組によって自ら進んで学習に取り組めたと実感できる児童が増えてきた。しかし、児童に学びを委ねた時間を通して高め合えず意見交流で終わってしまう児童や、学びが定着せず解いたつもりになったまま終わってしまう児童の姿もあった。

そこで、研究主題を「自分の力で学ぶ子の育成」と再び設定し、本校児童の育成すべき凡用的な資質・能力を「課題発見・問題解決能力」と関連付けて捉えた。これらの資質・能力を育てるために、「ゴールの姿を明確に捉え 自ら学ぶ『単元デザイン』」「ゴールの姿を明確に捉え 他者と交流して 課題解決につなぐ『ロックタイム』」を重点に設定する。教師は「ゴールの姿を明確に捉え 自ら学ぶ『単元デザイン』」を達成する為に、単元の導入で児童が興味関心を掻き立てる単元のゴールを設定し、共通の軸や学習計画を児童と共有していく。また、「ゴールの姿を明確に捉え 他者と交流して 課題解決につなぐ『ロックタイム』」を達成するために、展開部分の1時間やまとまりのある時間で児童に学びを委ねる「ロックタイム」の時間を確保する。個別最適な学びや協働的な学びを取り入れ、毎時間のふり返りを通して達成度を確認していく。ふり返りを通して達成度や自分の学び方を見つめ直し、次の学習に生かせるようにする。

これらについて、教科横断的な視点で授業改善を図ることで、「自分の力で学ぶ子の育成」が促進し、児童自身が自己調整能力を高められるようにし、本校の目指す児童の姿「進んで学び、よく考える かしこい子」「心身共に健康で 粘り強く取り組む たくましい子」を目指し、「主体的、対話的に学び合い、自分を磨き上げる児童の育成」を目指していく。

#### 3. めざす児童の具体的な姿（育てたい資質・能力「問題発見・課題解決能力」）

- ・単元のゴールや本時の課題解決のために、自己決定をしながら自ら学んだと実感できる児童
- ・ゴールの姿を明確に捉え、他者と交流して、課題を解決する児童

## 4. 研究仮説

児童がゴールの姿を明確捉え、達成度を確認しながら「自ら学んだ」と実感が得られるように授業改善を進めることで、児童が自分の学びの中で課題を発見し、自らの問題を解決しながら、自分の成長を自覚する姿が見られるようになるであろう。

## 5. 研究の重点と具体的な手立て

### 重点①ゴールの姿を明確に捉え 自ら学ぶ「単元デザイン」

- ・単元のゴールを児童が「取り組みたい」「しなければならない」と興味関心を掻き立てるようにする。
- ・ゴールの姿を具体的な児童の言葉で明確に示し、児童と一緒に単元をデザインする。
- ・学期に1回以上単元デザインシートを作成し、単元のゴールや共通の軸について考える時間をもつ。
- ・「相互授業参観」を行い、単元デザインシートに設定した本時の姿を参観し、それまでの学習を委ねた場面の取り組みについて交流する。

### 重点②ゴールの姿を明確に捉え 他者と交流して 課題解決につなぐ「ロックタイム」

- ・「ロックタイム」の学び方の姿を、全校児童と共有する集会を開く。
- ・「相互授業参観」を行い、単元デザインシートに設定した本時の姿を参観し、それまでの学習を委ねた場面の取り組みについて交流する。
- ・月末に対話的な校内研修会を開き、自己決定の場の設定やロックタイムについての進捗状況を交流する。さらに、改善に向けて取り組み内容を考えて共通実践につなげる。

## めざす児童の姿と検証方法

以下の方法で取組の検証を行い、PDCAサイクルを意識して新たな実践につなげる。

### 検証方法1 「漢字計算テスト・活用問題」

- ・活用調査問題で通過率 活用 75% 以上
- ・漢字計算テストで通過率 80%以上

### 検証方法2 「授業参観シート」

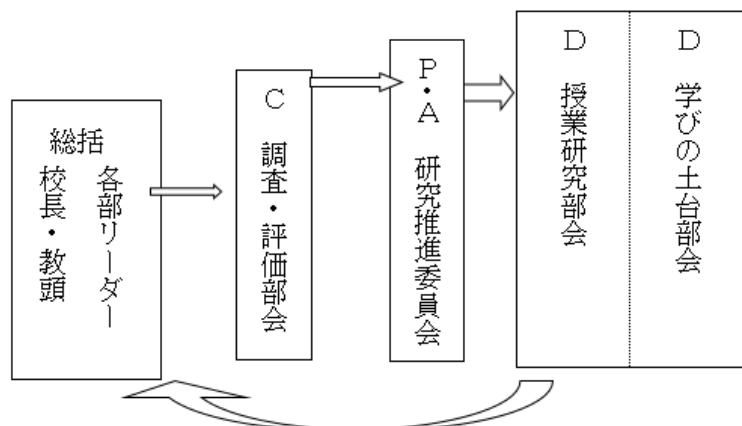
- ・「相互授業参観シート」を基に児童に学びを委ねた時間の中で、取り組みの効果として次の姿が表れているかどうか検証する。(ゴールが達成したかどうか)

### 検証方法3・4 「児童アンケート」「教員アンケート」

- ・児童と教師の意識調査の結果を分析し、組織的な実践の質を検証する。

## 6. 研究組織と研究内容

### 【研究組織】



### 【研究内容】

総括		
C 調査・評価部会	国・県・町学力調査の処理・分析・対策	岡田
◎教務主任 (岡田) (板谷) (級外)	各取り組みの検証 (児童・教員アンケート等)	板谷
	漢・計テスト・活用問題通過率の調査・分析	岡田 板谷
	研究授業整理会の準備・運営 等	岡田
PA 研究推進委員会		室屋
◎研究主任 (室屋) 研究副主任 (山本麻) 教務 (岡田) 授業研究 (中村) 学力向上 (上田)	学校研究・研修全般の計画推進および統括 学習体制作りの計画・推進 学力向上ロードマップの計画・推進 研修支援 (若プロ・OJT 担当)	中村 山本麻 室屋 上田 室屋 岡田
D 授業研究部	単元デザインシートの作成・活用・推進	中村
◎授業力向上担当 (中村) (岩田) (宮元) (山本麻)	授業の取組に関するパワーアップ集会 企画・運営 掲示物等の確認(ふり返り・話し合いを深める言葉) 学習目標の設定・周知・状況把握・振り返りシート 児童への啓発 (学習目標 目指す授業 等)	宮元 山本麻 岩田
D 学びの土台部会	6星パワー (聴く・引き出す・話す) の定着	上田
◎学力向上推進 (上田) (桶成) (北野) (三宅) (山本真)	漢字や計算の力の定着 スキルタイムで基礎学力定着 基本的生活習慣・学習習慣の確立	山本真 三宅 桶成 北野

### 7. 研究年間計画 (別紙「学力向上ロードマップ」参照)

### 8. 校内若手教員研修計画書 (別紙 「若手教員早期育成プログラム (鹿西小版) 」参照)